

アジア競技大会を活用した地域活性化ビジョン
(案)

2018年12月

愛 知 県

アジア競技大会を活用した地域活性化ビジョン

(案)

<目次>

I	ビジョンの策定にあたって	1
1	策定の目的と位置づけ	1
2	計画期間の考え方	2
3	アジア競技大会 愛知・名古屋大会	2
II	基本的な視点と施策体系	4
1	アジア競技大会に向けた4つの視点	4
2	SDGs（持続可能な開発目標）への貢献	5
3	施策の体系	6
4	施策の内容	7
	目標1 スポーツで愛知をブランディングする【スポーツ・健康】	7
	目標2 多くの来訪者で賑わう愛知をつくる【観光・文化】	12
	目標3 アジアにおける愛知の産業の存在感を高める【地域経済・産業】	16
	目標4 アジアと愛知の次世代を育む【人材育成・国際貢献】	19
III	ビジョンの推進に向けて	23
1	第20回アジア競技大会推進本部による総合的推進	23
2	多様な主体との情報共有と連携・協働	23
3	ビジョンの見直し	23
	参考資料	2
1	アジア競技大会 愛知・名古屋大会の開催概要	6
2	策定の経過（有識者会議）	7

1 策定の目的と位置づけ

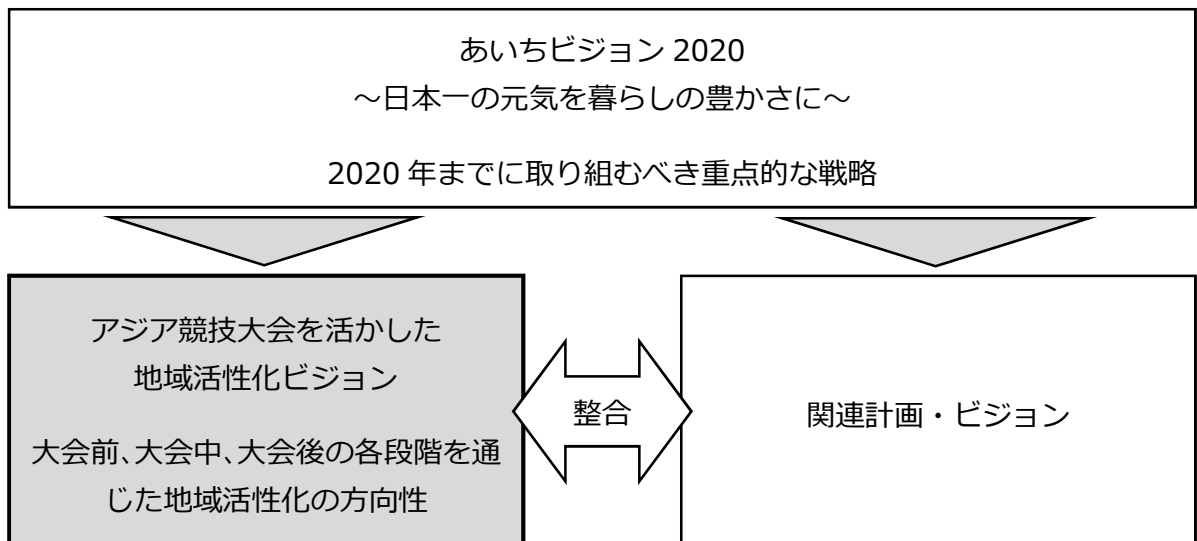
近年の国際的スポーツ大会においては、大会を開催するだけでなく、大会を契機として地域の活性化を促すことが重要視されています。2026年に愛知・名古屋で開催される第20回アジア競技大会においても、大会前、大会中、大会後の各段階において、アジア地域を始めとした世界に向け、当地域の存在感を示すとともに、スポーツの振興や観光の振興、新たな産業の創出などを促し、大会を通じた地域の活性化につなげていくことが必要です。

本ビジョンは、2030年頃を展望しつつ、アジア競技大会の開催を契機に、本県として取り組むべき地域活性化の方向性を示すものとして策定しました。

また、本ビジョンは、県民、企業・団体、市町村等とともに、アジア競技大会を活かした地域活性化の取組を推進するための指針としての役割も担います。

本県は、2030年頃の社会経済を展望し、2020年までに取り組むべき重点的な戦略を明らかにするとともに、県内各地域の取組方向を示す「あいちビジョン2020」を策定しています。本ビジョンは、「あいちビジョン2020」の趣旨・理念等を踏まえつつ、また関連計画における事業・取組との整合に留意しつつ策定しました。

アジア競技大会を活かした地域活性化ビジョンの位置付け



2 計画期間の考え方

2030年頃の本県の姿を見据えながら、アジア競技大会前、大会期間中、大会後のそれぞれに取り組むべき地域活性化の方向性を定めます。

3 アジア競技大会 愛知・名古屋大会

(1) アジア競技大会とは

アジア競技大会は、第二次世界大戦後まだ間もない1951年、戦禍によって引き裂かれたアジアの諸国の絆を、スポーツを通じて取り戻し、アジアの恒久平和に寄与したいとの願いを込めて、インドのネルー初代首相の提唱により、日本を含む11か国の参加のもと、第1回大会がニューデリーで開催されました。以来、スポーツにより友情を育み、多様性を認め合うことを通じて、国際平和に寄与する一大イベントとなっています。

アジア競技大会は、オリンピック憲章に明示されている『オリンピズム (Olympism)』を規範とする大会です。『オリンピズム』とは、近代オリンピックの父であるピエール・ド・クーベルタンが提唱した“オリンピックの精神”ともいうべき理念・哲学のことで、肉体と意志と精神のすべての資質を高め、バランス良く統合させる生き方の哲学です。

その目的は「人間の尊厳の保持に重きを置く平和な社会の推進を目指すために、人類の調和のとれた発展にスポーツを役立てることである」としています。また、「努力することの喜び」「友情」「連帯」「フェアプレーの精神と相互理解」「あらゆる形態の差別をなくすこと」などにも言及しています。

(2) 愛知・名古屋大会

愛知・名古屋大会は、スポーツ界にとって、2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会の次なる大きな目標となり、拡大するアジアとの交流を一層深める機会となるなど、日本全体にとっても大変意義のある大会です。

本県は名古屋市とともに、アスリートファーストの視点を踏まえながら、簡素で質素な、そして機能的で合理的な大会を目指し、開催準備を進めています。

2016年(平成28年)9月に発表した「第20回アジア競技大会開催構想」等では、開催概要並びにコンセプトを次のように定めており、会期については、その後2026年9月19日(土)～10月4日(日)に決まっています。

[開催概要]

- ◆会 期：2026年9月19日（土）～10月4日（日）
- ◆実施競技：36競技と仮定
- ◆メイン会場：瑞穂公園陸上競技場
- ◆選 手 村：名古屋競馬場移転跡地の他、県内で分散
- ◆選 手 団：選手・大会関係者 約15,000人を想定

[大会コンセプト]

- ◆アスリートファーストの視点
- ◆既存施設の活用
- ◆先端技術の駆使
- ◆伝統と県民・市民性に触れるおもてなし
- ◆アジア競技大会の開催を誇りに、さらなるスポーツ文化の普及へ貢献

1 アジア競技大会に向けた4つの視点

アジア競技大会を活用した地域活性化に向けて、4つの視点を設定します。

視点1

スポーツの力を活かす

スポーツは、「青少年の健全育成や健康の保持増進」「国や地域の誇り・連帯感の醸成」にとどまらず、「強力な集客力や情報発信力」「国際的な友好親善」などの多様な力を備えています。近年、スポーツの多様な力が地域づくりに極めて有益なものとして認知されるようになっていきます。

このため、スポーツをさらに発展させるとともに、教育・人材育成、健康づくり・地域福祉、産業振興、観光・文化振興などの社会課題の解決に向けてスポーツが備える多様な力を幅広く捉え、愛知及び日本・アジアの活性化に活かします。

視点2

アジアと強くつながる

アジアには世界の人口の6割にあたる約40億人が居住しており、今後も人口増加が予想されています。また、アジアは依然として高い経済成長を続けており、今後も高い成長が続くことが見込まれています。成長が著しいアジアの各国・地域との間で、経済活動はもちろんのこと、文化、友好等の交流活動を積極的に展開していくことは、愛知の活性化においては不可欠です。

このため、アジア最大のスポーツの祭典であるアジア競技大会が愛知で開催される機会を活かし、アジアとのつながりをより一層強いものとしていきます。

視点3

多彩な人々が参加する

本県で開催されるアジア競技大会を一過性のイベントに終わらせるのではなく、この大会をきっかけに、県内の各地域に良い意味の変化をもたらす大会としていくことが大切です。そのためには、アジア・オリンピック評議会（OCA）や組織委員会、行政（県・市町村）だけではなく、様々な分野、世代、立場の県民、企業・団体等が大会を“自分ごと”として捉え、それぞれが主体的に大会に関わっていく必要があります。特に、産業が盛んな本県においては、企業の参加や連携が重要になります。

このため、多彩な人々が参加する大会とし、多くの方々の参加の下で地域活性化に取り組めます。

視点4

リニア開業を見据える

愛知・名古屋大会の2027年には、リニア中央新幹線（東京－名古屋）の開業が予定されています。リニア中央新幹線の開業は日本の国土構造に大きな変化をもたらし、本県の各地域にも大きなインパクトを与えます。

「あいちビジョン2020」では、リニア中央新幹線の開業を見据え、『リニアを生かし、世界の中で存在感を発揮する中京大都市圏』を目指すべき愛知の姿として標榜しており、リニア中央新幹線の開業とそれが地域にもたらすインパクトを見据えて、地域活性化に取り組めます。

2 SDGs（持続可能な開発目標）への貢献

SDGsとはSustainable Development Goals(持続可能な開発目標)の略で、2015年9月の国連サミットで、日本を含む193の加盟国の合意の下に採択された国際目標のことです。2030年を年限とする17の国際目標が定められています。

本ビジョンの取組の推進にあたっては、SDGsの視点を取り入れた事業の推進を検討していきます。

3 施策の体系

地域活性化ビジョン 4つの視点

- | | |
|-----|------------|
| 視点1 | スポーツの力を活かす |
| 視点2 | アジアと強くつながる |
| 視点3 | 多彩な人々が参加する |
| 視点4 | リニア開業を見据える |

施策の体系 4つの柱

目標1 スポーツで愛知をブランディングする【スポーツ・健康】

基本施策

- 1-1. トップアスリートの育成・輩出
- 1-2. スポーツの振興
- 1-3. スポーツ大会等の招致
- 1-4. アジアのスポーツ振興への貢献

目標2 多くの来訪者で賑わう愛知をつくる【観光・文化】

基本施策

- 2-1. 愛知を中心とした観光交流拠点の形成
- 2-2. スポーツ・文化等のコンテンツの充実
- 2-3. 受入態勢の整備、おもてなしの充実

目標3 アジアにおける愛知の産業の存在感を強める【地域経済・産業】

基本施策

- 3-1. アジアやスポーツの課題に対応する技術開発の促進
- 3-2. 「Made in AICHI」のブランド力強化と販路拡大
- 3-3. アジアからの人材確保

目標4 アジアと愛知の次世代を育む【人材育成・国際貢献】

基本施策

- 4-1. ボランティアの育成
- 4-2. アジアとの交流の活発化
- 4-3. グローバル人材の育成と共生社会の推進

4 施策の内容

目標1 スポーツで愛知をブランディングする【スポーツ・健康】

愛知・名古屋大会の開催を契機に、多面にわたるスポーツの価値を理解し、高めるための取組を通じて、愛知のブランド力を高めていきます。

【目指す姿】

- 本県から多くのトップアスリートが輩出され、愛知・名古屋大会において活躍しています。
- アスリートが本県において、充実した選手生活を送ることができています。引退後も安定した生活が送れるとともに、県内の各地域においてスポーツの強化や普及、さらにはアスリートの経験を活かした様々な活躍ができる場が地域に整っています。
- 愛知・名古屋大会を機会に、国際的スポーツ大会の開催がさらに増えています。県民のスポーツへの関心も高まるとともに、各世代におけるスポーツに親しむ人が増えています。

基本施策	主な取組
1-1. トップアスリートの育成・輩出	①競技力向上対策事業、オリンピックあいち選手強化事業の継続 ②タレント発掘・育成事業の実施 ③アスリートサポート事業の実施 ④コーチ・トレーナー等のサポート人材の育成・確保 ⑤トレーニング環境の充実
1-2. スポーツの振興	①地域のスポーツイベントの活性化 ②スポーツ関連施設の有効活用の促進 ③地域密着型の特定競技の普及・応援の推進 ④地元チーム・アスリート応援事業の実施
1-3. スポーツ大会等の招致	①国際的な大会、国際親善試合の招致・育成 ②各世代の全国大会の招致・開催 ③トレーニングキャンプ等の誘致
1-4. アジアのスポーツ振興への貢献	①アジアのアスリートの受入 ②アスリート・指導者等によるアジアとの交流 ③アジア競技大会の運営ノウハウの提供

基本施策 1-1. トップアスリートの育成・輩出

多くのトップアスリートを発掘し、育て、活躍する仕組みをつくります。育成においては、選手としての大会での活躍のみならず、引退後の活動等も見据えて行います。

<主な取組>

①競技力向上対策事業、オリンピックあいち選手強化事業の継続

本県においては、東京オリンピック・パラリンピックを目指し、愛知県体育協会や各競技団体と連携しながら「競技力向上対策事業」及び「オリンピックあいち選手強化事業」を実施していますが、東京オリンピック・パラリンピック終了後においても、愛知・名古屋大会に向けてこうした事業を継続していきます。

②タレント発掘・育成事業の実施

愛知・名古屋大会に本県から数多くの選手を輩出するため、各競技の特性に応じた優れた資質や能力を有する人を発掘し、発達や発育のレベルに応じた効果的かつ一貫した育成プログラムを実施する事業に取り組みます。なお、この事業の実施においては、愛知県体育協会や各競技団体とともに、大学や学校部活動、スポーツクラブ、スポーツ指導者等の協力・連携体制を構築していきます。

③アスリートサポート事業の実施

アスリートが安心して競技を継続できる環境を整えるとともに、競技引退後もアスリートの経験を活かしたキャリアを形成できるように、日本オリンピック委員会や各経済団体、企業等と連携して「アスナビ」等のアスリートに対する就職支援事業を実施するとともに、市町村等と連携しながら、県内各地域におけるスポーツの指導や普及のための人材として活躍するための仕組みを構築していきます。

④コーチ・トレーナー等のサポート人材の育成・確保

アスリートの発掘・育成・強化のための人材面の環境を充実させるため、各競技のコーチの他、スポーツドクター、アスレチックトレーナー、スポーツ栄養士、アナリスト、地域クラブのマネージャー等の様々なスポーツ指導者の育成・確保を、日本スポーツ協会や愛知県体育協会等と連携して取り組みます。また、愛知・名古屋大会における競技の円滑な運営を見据えて、国際審判員、大会コーディネーターや運営マネージャー等の人材の育成・確保にも取り組みます。

⑤トレーニング環境の充実

大学、企業、市町村等と連携し、既存施設等も活用しながら、アスリートの発掘・育成・強化のためのハード面の環境を充実させます。また、アスリートのスポーツ外傷や障害の治療・リハビリテーションに適切に対応するため、大学や医師会等と連携しながらスポーツ医科学の充実を図ります。

基本施策 1-2.スポーツの振興

各世代が気軽にスポーツに親しむことができる場づくりや機会づくりにより、多様な形でスポーツに関わることができる環境をつくり、スポーツ振興を図ります。

<主な取組>

①地域のスポーツイベントの活性化

多様な人が身近な場所でスポーツに親しむことができる場づくりを行うため、県内各地における学校、企業、地域等のスポーツイベントの活性化を促進するとともに、スポーツイベントを通じて愛知・名古屋大会の周知や実施競技の周知・普及を行います。また、愛知・名古屋大会の機運を高めるとともにスポーツの実施率向上を図るため、愛知・名古屋大会の実施種目やニュースポーツなどが身近な場所で気軽に体験できたり、アスリートと交流できるイベントを、愛知県体育協会、市町村、競技団体等と連携して実施します。

②スポーツ関連施設の有効活用の促進

多様な人がスポーツ施設を容易に確保し利用できるようにするため、学校、企業等と連携し、各者が管理する体育施設について未使用時の開放等による有効活用を促進するとともに、既存の公共スポーツ施設についてニーズに合わせた利用時間帯の見直し等により、県民の利用利便性の向上を図り、スポーツ実施機会の拡大を図ります。

③地域密着型の特定競技の普及・応援の推進

愛知・名古屋大会において、県内各地で行われる各競技を盛り上げていくとともに、各市町村のスポーツ振興や活性化に貢献するため、「〇〇のまち△△市」など、市町村ごとに特定の競技を重点的に普及・応援する仕組みを構築します。

大会前には当該競技に関する学習、体験、アスリートとの交流等を行い、大会期間中には当該競技の応援やサポート等を促します。

④地元チーム・アスリート応援事業の実施

県内で開催されるスポーツイベントを盛り上げるとともに、県民による地元チームやアスリートの応援機運を高めるため、本県が発行・発信する「aispo!」等を活用して地元スポーツ情報を発信するとともに、県民による応援体制づくりを市町村・企業や地元チーム・アスリートと連携して促進します。

- 愛知県スポーツ情報ポータルサイト
“aispo!web” <http://aichi-sports.jp/>

- フリーマガジン
「aispo!」



基本施策 1-3.スポーツ大会等の招致

国際レベル、全国レベル等の様々なスポーツ大会について、「あいちスポーツコミッション」を活用しながら県内各地に招致するとともに、スポーツ関係会議の開催など本県の「スポーツMICE」の推進を図ります。

<主な取組>

①国際的な大会、国際親善試合の招致・育成

愛知・名古屋大会の開催に向けた運営等の経験を重ねるとともに、県民の関心や機運を高めるため、各競技団体と連携しながら、国際的な大会や国際親善試合の招致を行うとともに、既存の大会についても、広報活動の協力や大会の盛上げを支援することなどにより、より充実した大会への育成を図ります。特に、アジア競技大会の前にはアジア選手権やアジアの国との親善試合の招致を図ります。

愛知・名古屋大会後には、その開催実績をPRしながら、国際的な大会の招致に継続的に取り組んでいきます。

②各世代の全国大会の招致・開催

本県のスポーツ振興やトップアスリートの育成・輩出を促進するとともに、スポーツ大会を活用した地域活性化を図るため、各競技団体と連携しながら、日本選手権やジュ

ニア大会、マスターズ大会等の各世代の全国レベルの大会等の招致を図ります。

③トレーニングキャンプ等の誘致

国際的大会に向けた事前合宿や国内外のチームのトレーニングキャンプ等について、各競技団体、市町村等と連携しながら、県内各地に誘致します。

基本施策 1-4. アジアのスポーツ振興への貢献

アジア全体のスポーツ振興に貢献するため、アジア各国と愛知とのスポーツ交流を進めるとともに、スポーツに関するノウハウの提供・共有を行います。

<主な取組>

①アジアのアスリートの受入

アジア各国のトップアスリート育成や競技力向上に貢献するため、県内の各施設やチームと連携しながら、アジア各国のアスリートに対して、選手や練習生としての県内チームへの受入や施設の開放等によるトレーニング環境の提供を促進します。また、ジュニア世代のアスリートを本県に招待し、県内の小・中学生との親善試合、トップチームの観戦等による交流事業を、各競技団体や各国大使館・領事館等と協力しながら行います。

②アスリート・指導者等によるアジアとの交流

アジア各国の競技力向上やスポーツ普及に貢献するため、「JICA ボランティア」や「SPORT FOR TOMORROW」と連携しながら、県内のコーチ・指導者やアスリートをアジアの開発途上国を中心とした各国へ派遣し、現地の競技力向上、スポーツ振興等による交流を促進します。

なお、「SPORT FOR TOMORROW」については東京オリンピック・パラリンピックを目標とした取組となっていますが、その後についても愛知・名古屋大会に向けた事業継続を働きかけます。

③アジア競技大会の運営ノウハウの提供

これまで各国で開催されているアジア競技大会では、運営ノウハウが蓄積・共有されずに、運営に苦労している実態が見受けられることから、愛知・名古屋大会においては、招致段階、開催準備から運営に至るまでの過程やノウハウを記録し、その後に大会を開催する国や関係機関に提供します。

目標 2 多くの来訪者で賑わう愛知をつくる【観光・文化】

大会を契機に、アジア諸国を対象としたインバウンド観光の振興を図るとともに、愛知の文化、芸術、コンテンツに対する関心を高めることにより、魅力があり、訪れやすい地域としての評価を獲得し、多くの来訪者で賑わう愛知をつくります。

【目指す姿】

- 多くの魅力ある観光資源があり、外国人の受け入れにやさしい地域と評価され、本県に多くのアジア観光客が訪れています。
- 日本、愛知のスポーツ、文化、芸術、コンテンツ等に対するアジア各国の人々の関心が高まり、アジア各国との交流が活発になっています。

基本施策	主な取組
2-1.愛知を中心とした観光交流拠点の形成	①アジア競技大会のPRと併せた愛知の魅力発信 ②アジアからの来訪者向けのツアー造成 ③食文化の魅力の発信 ④広域観光の推進
2-2.スポーツ・文化等のコンテンツの充実	①スポーツツーリズムの推進 ②文化芸術イベントの展開 ③産業観光・歴史観光の推進
2-3.受入態勢の整備、おもてなしの充実	①来訪者の利便性の向上 ②案内機能・多言語対応の充実 ③多様な文化・宗教への配慮

基本施策 2-1.愛知を中心とした観光交流拠点の形成

周辺地域とともに広域的な観光交流拠点県の特性を活かしたアジア向けのPR、プロモーション等を展開します。

<主な取組>

①アジア競技大会のPRと併せた愛知の魅力発信

アジアの人々が関心を持つ本県の歴史文化、自然環境、産業といった様々な資源を発掘し、愛知・名古屋大会のPRと併せて、その魅力の発信に取り組みます。

特に、大会期間中には、観光協会や旅行代理店等と連携した魅力の発信はもとより、大会に参加する選手やメディア、観戦客の発信力を活かして、本県の魅力をアジアに広く発信します。大会後は、アジア競技大会の開催により本県への関心が高まった好機を

活かし、国内外からの誘客の促進につなげます。

②アジアからの来訪者向けのツアー造成

愛知・名古屋大会に向けて、観光協会、旅行代理店等と連携し、大会観戦を盛り込んだツアーの造成を図ります。

大会期間中は、選手やメディア、観戦客向けのショートトリップを実施するなど、競技の観戦・母国の応援のみならず県内を観光できる体制づくりに取り組みます。大会後は、こうしたツアー造成のノウハウや実績を活かしながら、アジアの人々のニーズに合ったツアー造成の取組を行います。

③食文化の魅力の発信

本県の伝統的な食文化や、「なごやめし」をはじめとする特色ある食文化の魅力を愛知・名古屋のPRと併せて、アジアへ広く発信します。

大会期間中は、飲食関連業者、食品製造者、農産品の生産者等と協力し、選手村や競技会場、メディアセンター等において、本県の食文化を味わえる機会を設けます。大会後は、選手やメディアの方々の評価等を踏まえて、アジアに対する魅力発信を行っていきます。

④広域観光の推進

訪日客が多く通過するゴールデンルートや昇龍道のルート上にある立地をより活かすため、競技会場周辺の観光案内の強化や競技会場周辺地域を起点とするツアーの実施等により、これらのルートにおけるアジアの人々にとっての魅力づくりを強化していきます。

特に大会期間中は、愛知・名古屋大会の観戦をこの中に盛り込み、大会への集客を図っていきます。

基本施策 2-2.スポーツ・文化等のコンテンツの充実

スポーツツーリズムや文化プログラムの展開など、愛知の多様なコンテンツを活かした集客を図ります。

<主な取組>

①スポーツツーリズムの推進

アジア各国から本県に訪れる外国人観光客の拡大を図るため、「あいちスポーツコミッション」を活用しつつ、観戦型・参加型のスポーツツーリズムの定着を図っていきま

す。

特に、試合数の多いプロスポーツの観戦（プロ野球、Jリーグ、Bリーグ、Fリーグ、Tリーグ等）、参加人数の多いスポーツ大会への参加（マラソン大会、トライアスロン大会等）、恒常的に参加機会のあるスポーツの体験（ゴルフ、サイクリング等）などを中心に、新たなツアーの開発を事業者や市町村とともに推進していきます。

②文化芸術イベントの展開

アジア競技大会では、大会に併せて文化プログラムの実施が規定されていることから、愛知・名古屋大会と併せて、文化芸術イベントを実施することにより、スポーツに関心の薄い方々も愛知・名古屋大会に対して興味・関心を持ち、参加できる機会を創出します。

また、あいちトリエンナーレをはじめ、県内で開催される文化芸術イベントと連携し、合同でPR等を実施することで、相互の集客力を強化します。

特に、アジアに関する文化芸術イベント等と連携することで、多様な文化間での相互理解を促進するとともに、本県の文化芸術を育む土壌を、アジアに向けて発信します。

③産業観光・歴史観光の推進

企業博物館、工場見学、伝統工芸体験、酒蔵めぐりといった本県の強みである産業を題材とする産業観光や歴史的建造物、戦国武将等を題材とした歴史観光を、アジアの人々のニーズを踏まえながら推進し、愛知・名古屋大会への来訪者が、愛知らしい観光スタイルを楽しめる環境を市町村や観光協会、企業等と連携してつくります。

基本施策 2-3.受入態勢の整備、おもてなしの充実

インターネットの利便性向上、多言語対応、ムスリム対応等により、外国人が快適に滞在できる環境を整備するとともに、県民によるおもてなし態勢の充実を図ります。

<主な取組>

①来訪者の利便性の向上

愛知・名古屋大会の開催に向けて、来訪者の利便性の向上を図るため、「公衆無線 LAN」等のインターネット利用環境、「キャッシュレス決済」の利用環境の整備などを促進していきます。また、外国人観光客が不自由なく公共交通機関を利用できるよう、公共交通の利便性を高める取組を関係機関に働きかけます。

②案内機能・多言語対応の充実

愛知・名古屋大会への来訪者が、競技会場への移動や観光に当たって的確な情報入手できるよう、多言語対応の可能な案内所の拡大やICTを活用した多言語コミュニケーションツールの活用といった案内機能の充実を図ります。

また、競技会場や主要な施設などにおいては、多言語での案内表示やピクトグラムの表示の整備を施設管理者等に働きかけます。

③多様な文化・宗教への配慮

アジアには多様な文化的、宗教的背景を持つ人々が暮らしていることを踏まえ、愛知・名古屋大会のPRを通じて、県民が文化や宗教の違いを理解し、異なる文化的、宗教的背景を持つ人に対して配慮できる態勢を構築します。礼拝場所の設置やハラールフードの提供といった特別な配慮が必要なムスリム対応を始め、外国人利用者が多いと考えられる施設の管理者等に対して、必要となる環境の整備を促します。

こうした取組を大会前後を通じて行うことで、アジアのみならず世界中から来る人々をおもてなしできる愛知を目指します。

目標3 アジアにおける愛知の産業の存在感を強める【地域経済・産業】

愛知のものづくりの歴史的蓄積や先進技術、また地場産業や農林水産物などをアジアに向けて強くアピールすることにより、アジアと愛知の関係性を深化させ、アジアにおける愛知の産業の存在感を強めていきます。

【目指す姿】

- 愛知が「高度先端産業」の集積地であることが、アジア各国に周知され、県内企業の海外展開のチャンスが拡大するとともに、アジア各国との経済的なつながりがより密接なものとなっています。
- 愛知の農林水産品や地場産品のブランド力がアジアにおいて強化され、アジア各国で広がっています。

基本施策	主な取組
3-1.アジアやスポーツの課題に対応する技術開発の促進	①アジアの課題解決に貢献するビジネス展開の促進 ②スポーツとの連携による産業の新たな展開
3-2.「Made in AICHI」のブランド力強化と販路拡大	①大会の各場面を使った「Made in AICHI」のショーケース化 ②アジアにおける「Made in AICHI」の販路拡大 ③県内企業のアジア展開の促進
3-3.アジアからの人材確保	①外国人留学生の地域での活躍促進 ②外国人県民の地域定着、キャリアアップの促進 ③外国人材の受入促進

基本施策 3-1.アジアやスポーツの課題に対応する技術開発の促進

本県のものづくり等の蓄積を活かし、アジアの課題解決やスポーツ振興等に貢献する技術開発や応用を促進します。

<主な取組>

①アジアの課題解決に貢献するビジネス展開の促進

大会の開催に向けてアジアの各国と交流を深める中で、高齢社会への対応、医療水準の向上、交通機関の安全性の向上、自然環境の保全といったアジアの国々が抱えている多様な課題を理解し、県内企業が持つ技術の活用や販路拡大を支援することによって解決することを促進します。

②スポーツとの連携による産業の新たな展開

本県に蓄積されている高度な産業技術をスポーツ分野と融合させ、競技力の向上や大会運営にも貢献する新たな技術の開発を促進します。

そのため、産業技術について研究する大学や研究施設等とアスリート、指導者、スポーツに関わる企業等との交流の場を設けるなど、それぞれのニーズをマッチングできる機会を創出することを検討します。また、こうしたスポーツとの連携による産業の新たな展開についてのメリットを県内の企業に広くアピールしていきます。

基本施策 3-2. 「Made in AICHI」のブランド力強化と販路拡大

工業製品や農林水産物などの本県の製品のブランド力強化や、アジアへの販路拡大等を図ります。

<主な取組>

①大会の各場面を使った「Made in AICHI」のショーケース化

アジアに向けて発信できる先進的な産業技術や地場産品、農林水産物等を愛知・名古屋大会の様々な場において積極的に活用し、産業技術の先進性や品質の高さを体感できるショーケースの舞台として活用します。

②アジアにおける「Made in AICHI」の販路拡大

見本市への出展支援や、ビジネスマッチング等の機会を通じて、アジア各国への市場拡大を支援します。

③県内企業のアジア展開の促進

あいち国際ビジネスセンターや海外産業情報センター・愛知県サポートデスクにおいて、アジア各国への進出に関する情報提供や相談対応、関係機関と連携した支援を実施し、県内企業のアジア展開を多面的にサポートします。

基本施策 3-3. アジアからの人材確保

アジアと愛知との親密性を高め、アジアからの高度人材の受入拡大を図ります。

<主な取組>

①外国人留学生の地域での活躍促進

県内に在学する外国人留学生がより多く県内企業に就職するよう、企業の留学生採用

意欲を喚起します。また、インターンシップや交流会等の就職支援により、留学生と企業の交流と相互理解を図っていきます。

②外国人県民の地域定着、キャリアアップの促進

県内で働く外国人県民が定着して暮らしたいと思える地域となるために、外国人の子供の教育の充実や外国人県民が医療等を安心して受けられる体制の推進など環境整備を図ります。また、必要な技能・資格の習得など外国人のキャリアアップのための支援を行うとともに、働く外国人県民の技能向上などを企業等に呼び掛けます。

③外国人材の受入促進

国家戦略特区における規制緩和の特例措置等を活用することを通じて、さまざまな技能を有する人材のアジアから本県への受入れを促進し、本県の産業競争力をさらに向上させるとともに、市町村及び NPO 団体等と連携し、本県で受け入れた外国人材や家族等の生活サポートの充実を図ります。

目標4 アジアと愛知の次世代を育む【人材育成・国際貢献】

ボランティア文化を成熟・定着させていくとともに、アジアとの交流活動、国際理解教育等を継続的に展開することにより、アジアと愛知の次世代を担う人材を育成します。また、あらゆる人々が多様な分野で活躍し、その能力を発揮できる社会の実現を目指します。

【目指す姿】

- スポーツ大会等におけるボランティアを通じて、ボランティアに関する県民の理解が深まり、ボランティア活動に取り組む県民が大きく増加しています。
- 「ひと」「もの」「情報」などにおける本県とアジア各国との交流がより一層盛んになり、お互いの発展に貢献しています。
- 優れた国際感覚を有するグローバル人材が本県から多く輩出されるとともに、多文化共生をはじめとして、多様性が特色となる全国でも有数の共生社会が本県において実現しています。

基本施策	主な取組
4-1.ボランティアの育成	①ボランティアの定着化の促進 ②ボランティア人材の育成 ③大会を支えるボランティアの確保・育成
4-2.アジアとの交流の活発化	①地域におけるアジア各国との交流・友好の促進 ②アジアの外国人県民とのネットワークの強化 ③多様な分野によるアジア各国との交流促進
4-3.グローバル人材の育成と共生社会の推進	①国際理解教育の推進 ②国際人材を目指したキャリア教育 ③交換留学、海外との人材交流の促進 ④共生社会の推進

基本施策 4-1. ボランティアの育成

愛知万博から継承されるボランティア文化の活用に加え、愛知・名古屋大会に向けたスポーツボランティアの育成を図ることにより、県民のさらなるボランティア参加を促進します。

<主な取組>

①ボランティアの定着化の促進

県内で開催される様々なスポーツ大会、スポーツイベントにおいてボランティアの活動機会の拡大を図るとともに、県・市町村、学校、企業・団体等、様々なチャンネルを

通じて、ボランティア活動に関する情報提供等を強化することにより、スポーツをきっかけに参加したボランティアの継続的な活動を促進します。

②ボランティア人材の育成

ボランティアが機能的に活躍していくためには、ボランティアマネジメントができる人材やボランティアリーダーとなる人材の育成が必要であることから、関係団体や大学等と連携しながら、ボランティアの知識や技術を習得するプログラム展開や、ボランティア団体の育成等を通じて、ボランティア人材の育成を図ります。

③大会を支えるボランティアの確保・育成

企業・団体、市町村、学校等と連携し、愛知・名古屋大会を支えるボランティアの確保・育成や環境整備に取り組みます。

特に、当地で開催される名古屋ウィメンズマラソンやラグビーワールドカップなどの大規模スポーツ大会などで得た経験、知見を継承し、愛知・名古屋大会を支えるボランティアの確保・育成に活かしていきます。

基本施策 4-2.アジアとの交流の活発化

多様な主体や機会において、アジア各国との草の根的な交流等を行うことにより、産官学民における愛知とアジアとの理解や友好を促進します。

<主な取組>

①地域におけるアジア各国との交流・友好の促進

2005年の愛知万博において実施した「一市町村一国フレンドシップ事業」等も参考にしながら、愛知・名古屋大会に参加するアジア各国との交流を推進します。交流主体としては、県内市町村の他、企業、学校、地域団体なども想定するとともに、インターネットやSNSなども活用しながら、多様で柔軟な交流を促進します。

愛知・名古屋大会の前にはマッチングを行い相互の交流を始めるとともに、大会期間中の当該国アスリートの応援や支援につなげます。

②アジアの外国人県民とのネットワークの強化

本県には日本以外のアジア各国にルーツをもつ外国人県民が多く居住・滞在していることから、これらの人とのネットワークを強化することにより、アジア各国との相互理解を深めるとともに、愛知・名古屋大会の運営や県内各地域の活性化への参加を促進します。

愛知・名古屋大会の前にはネットワークを強化して大会運営への助言や母国への情報発信等、大会期間中には来訪した母国の選手・関係者や観客のアテンド等への参画を促します。

③多様な分野によるアジア各国との交流促進

本県はアジア各都市との連携等を推進していますが、これらの都市とスポーツ・教育・文化等も含めた多様な分野での連携・交流を行うとともに、その他のアジアの都市との連携も推進していきます。

<アジアとの提携先>

相手国・地域	連携の内容
江蘇省（中国）	友好提携、経済連携
ベトナム計画投資省	経済連携
バンコク都（タイ）	相互協力
広東省（中国）	相互協力
タイ工業省	経済連携
京畿道（韓国）	相互協力
ホーチミン市（ベトナム）	相互協力
インドネシア経済担当調整大臣府	経済連携

基本施策 4-3. グローバル人材の育成と共生社会の推進

アジア競技大会を機会としたアジアとの交流を通じて、国際的に活躍のできるグローバル人材を育成します。また、あらゆる多様性を尊重し、みんなが認め合い、支え合う社会の実現を図ります。

<主な取組>

①国際理解教育の推進

愛知・名古屋大会の開催を契機に、アジアをはじめとした海外との県民の交流や往来が一層盛んになると想定されることから、小学校・中学校・高等学校の児童生徒を中心に、外国語教育の充実、異文化体験、交流機会等を通じて、外国人との相互理解の大切さを学ぶ国際理解教育を推進します。

愛知・名古屋大会の前には大会を参考とした学習を推進し、大会期間中の来訪者のおもてなし等を通じた交流につなげていきます。

②国際人材を目指したキャリア教育

今後のグローバル化に対応するために、本県においても海外でも活躍できる国際人材

を育成する必要があることから、学校や企業等と協力しながら、外国人とのコミュニケーション能力の強化や外国語教育の充実を図るとともに、若者が海外へ出ていく機会、県内で同世代の外国人との接点を持つことができる機会づくりを行います。

愛知・名古屋大会期間中に、これまでのキャリア教育の成果を発揮できるよう、様々な場面の創出を図ります。

③交換留学、海外との人材交流の促進

若者による海外経験や人材交流を促進するため、引き続き、主に高校生・大学生を対象に、短期留学や海外ボランティア活動などの実施を促進します。また、留学の促進に向け、県内大学とアジア各国の大学との提携を促進し、留学しやすい環境づくりを行うとともに、留学先としての本県の魅力発信等を行います。

大会期間中に留学生や海外経験を積んだ若者が活躍できるように、様々な場面の創出を図ります。

④共生社会の推進

グローバル化などの社会情勢を踏まえ、国籍、文化、習慣、性別、世代、考え方等の違いを認め合った上で多様な価値観を受け入れ、互いの人権を尊重し、共生できる社会をつくっていくための取組を総合的に実施します。特に愛知・名古屋大会の開催に向けて、国籍・文化・宗教等の違いや多様性を認め合う「多文化共生社会」の実現をより一層図っていきます。

1 ビジョンの推進

本ビジョンに掲げた取組の実施にあたっては、庁内関係部局と密接に連携しながら、総合的に事業展開を推進していきます。

なお、大会の運営主体となるアジア競技大会組織委員会の設立が予定されていることから、同委員会が策定する計画、実施する施策・事業等との調整を図りつつ事業の推進に取り組んでいきます。

2 多様な主体との連携・協働

ビジョンに掲げた取組の主体は、県だけにとどまりません。県民はもとより、市町村、企業、経済団体、競技団体、NPO、教育機関等の様々な主体の積極的な参加が必要となります。

そこで、様々な主体との連携・協働関係を構築するとともに、ビジョンに掲げた取組に関する情報共有を図り、ビジョンの推進に取り組んでいきます。

3 ビジョンの見直し

今後の社会経済情勢の変化に的確に対応するため、様々な主体との連携・協働関係を構築するなかで、事業の推進状況についてフォローアップしながら、必要に応じて柔軟にビジョンの見直しを行うものとしします。

アジア競技大会を活用した地域活性化ビジョン

2019年3月

編集・発行：愛知県振興部アジア競技大会推進課

〒460-8501 名古屋市中区三の丸3丁目1番2号

電話：052-961-2111（代表）

ホームページ：<http://www.pref.aichi.jp/>